



# EMBASSY OF THE REPUBLIC OF THE UNION OF MYANMAR, TOKYO



NEWSLETTER VOLUME NO. 10

DATED: November 2024

No.	
1.	国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官 2024 年世界観光デー記念式典に出席しスピーチを表明
2.	国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官ミャンマー警察隊の日 60 周年式典に出席しスピーチを表明
3.	国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官メイティエラ県の各部署の担当者や、地元の人々と地域経済発展についての会合
4.	国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官より世界教師デー記念式典へのメッセージ
5.	国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官より日本の石破茂首相に祝辞を拝送
6.	国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官 沿岸警備隊司令部設立 3 周年記念式典ならびに海軍船舶の就役披露式に出席
7.	ヤンゴン地方域の安全と発展の会議における国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官のスピーチ
8.	国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官に第 18 回 ASEAN 海軍司令官会議に出席する ASEAN 海軍司令官及び代表団のリーダーらが表敬訪問
9.	国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官 第 25 回シルバージュビリー記念 ミャンマーの伝統的な歌、踊り、作詞、演奏コンクール の開会式に出席
10.	国家統治評議会議長兼首相および国家統一平和構築中央委員会委員長ミン・アウン・フライン国軍総司令官 全国停戦協定 (NCA) 署名 9 周年記念においてスピーチを表明
11.	カタールのドーハで開催された第 3 回アジア協力対話 (ACD) 首脳会議にタン・スェ副首相兼外務大臣が出席
12.	タン・スェ副首相兼外務大臣 第 3 回アジア協力対話 (ACD) 期間中にキルギス副首相ならびにネパール外相とドーハで別途会談
13.	タン・スェ副首相兼外務大臣に国際移住機関の駐ミャンマー代表 Mr. Daihei Mochizuki が任命状を提出
14.	副首相兼外務大臣 駐ミャンマー国連機関と説明会を開催
15.	ルイン・ウー副外務大臣 H.E Mr. Iskander Azizov 駐ミャンマーロシア大使と面会
16.	ルイン・ウー外務副大臣 国連プロジェクトサービス機関の Ms. Sara Austin Netzer 駐ミャンマー事務所所長兼代表と面会
17.	よし乃郷グループの事業所を駐日ミャンマー大使が視察
18.	ASEAN 外相会議および関連会議に外務事務次官率いるミャンマー代表団が出席

- |     |   |
|-----|---|
| 19. | 第 44 回、第 45 回 ASEAN 首脳会議及び関連会議に外務事務次官率いるミャンマー代表団が出席 |
| 20. | ASEAN+3 首脳会議および関連会議に外務事務次官率いるミャンマー代表団が出席            |
| 21. | 台風「ヤギ」の被害を受けたミャンマー国民に対し日本政府より緊急支援を行うと発表             |
| 22. | ミャンマーからバナメイエビを中国と日本に輸出                              |

## 1. 国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官 2024 年世界観光デー記念式典に出席しスピーチを表明

(ネーपीドー/9 月 27 日)

2024 年世界観光デーの記念式典がネーピードーのミャンマー国際コンベンションセンター II で開催され、国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官がオープニングスピーチを行いました。

まず初めに、国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官はスピーチの中で、観光業の重要性と観光に関連して得られる社会的、文化的、政治的、経済的な利益についてさらに知識を広めることを目的として、国連世界観光機関憲章が採択された 1970 年 9 月 27 日が世界観光の日と定められ、世界各国で世界観光デーの式典が開催されていると述べました。

世界観光デーの記念式典は毎年テーマを決めて開催されており、今年のテーマは「観光と平和」(Tourism and Peace)で、主催国であるジョージアのトリビシで世界観光デーの記念式典が開催されたと述べました。

観光業の発展を通じて、経済発展、国際理解、平和、繁栄、人権尊重、人種差別のない基本的自由、信仰の自由、平等の権利等に取り組むことを目的として 1976 年に国連世界観光機関(United Nations World Tourism Organization- UNWTO)が設立されたこと、現在、ミャンマーを含む加盟国 160 か国、加盟地域 6 地域、ならびに 500 以上の民間団体が加盟していること、2024 年 1 月に略称が UNWTO から UN Tourism に変更となったと述べました。

観光業は世界最大のサービス産業の一つであり、多くの雇用機会を創出できるビジネスであること、統計によると新型コロナウイルス感染症(Covid-19)の流行が発生する以前の 2019 年には、計 15 億人の旅行者が世界中を旅行し、観光産業により US ドル 1 兆 8000 億の収入を得ていたこと、観光業は世界の GDP において 10.3% 貢献し、3 億 3000 万人の雇用を創出したと述べました。

ミャンマーへの外国人観光客の到着状況を見た場合、2023年には100万人を超える外国人観光客が到着し、2024年の最初の5か月間で50万人を超える外国人旅行者が到着しており、観光客の到着が前年よりも向上することが期待できること、国家統治評議会として、和平プロセスを遂行する上で実際的かつ可能性のある行動を優先していること、その際に、各民族のリーダー自らが政府と連携して地域開発活動に積極的に協力し取り組めば、各民族の地域開発も迅速に発展するであろうこと、平和を構築することで各民族の人々の社会経済生活が回復し、平和のテイストや果実を享受することができるようになるため、現在の暴力や暴動の鎮静化と地域の安定・平和について優先的に取り組む必要があると述べました。

「観光と平和」(Tourism and Peace) という2024年の世界観光デーの記念テーマに沿って、ミャンマー観光業の今後の長期的な発展のための和平プロセスにおいて、観光分野に携わるすべての関係者に対し政府と協力し参加することを希望すると述べました。



国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官  
2024年世界観光デー記念式典に出席しスピーチを表明



国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官 2024 年世界観光デー記念式典に展示された地方域ならびに州の観光地別のブースを興味深く閲覧

## 2. 国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官 ミャンマー警察隊の日 60 周年式典に出席しスピーチを表明

(ネーपीドー/10 月 1 日)

ミャンマー警察隊の日 60 周年式典がネーピードーのミャンマー国際コンベンションセンター II で開催され、国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官が出席しスピーチを行いました。

国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官はスピーチの中で、独立後、ミャンマー警察隊の組織改革が行われたこと、革命評議会の時代である 1964 年 10 月 1 日に「人民警察隊」と称することが定められ、警察隊の日としても定められたこと、1995 年 10 月 1 日に「人民警察隊」から「ミャンマー警察隊」と改名となったこと、本日、ミャンマー警察隊は 60 周年を迎えることとなったと述べました。

我々の責務 3 項目に重点を置き、国家統治評議会のロードマップ 5 項目と目標 9 項目を成功させること、国民の社会経済生活の安全のために、連邦全体の安定と平和、法秩序の確保に引き続き注視しなければならないこと、ミャンマー警察隊はテロ対策において国軍および国民とも協力し取り組むよう、強調して指示したいと述べました。

さらに、国内の安全と地域の平穏、法秩序、薬物危険の予防・防止、公共サービス事業といったミャンマー警察隊の目的任務 4 項目と、犯罪の発生を未然に防ぐこと、発生した犯罪を捜査し起訴すること、国内の秩序の維持、公共の安全、麻薬や向精神薬

など危険薬物の防止・撲滅、公共サービス事業といった業務の責務6項目を順調に実行する必要があると述べました。

公益を守るために、警察の職務に熟達し、献身的に職務を遂行し、誠実さや高潔さを備え、国民からの尊敬と信頼を備えた法執行官となるよう尽力し、我々の3項目の責務に重点を置いて、ミャンマー警察隊の目的任務4項目ならびに業務の責務6項目を達成できるよう努力し実行することを求めると述べました。



国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官  
ミャンマー警察隊の日60周年式典においてスピーチを表明

### 3. 国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官 メイティーラ県の各部署の担当者や、地元の人々と地域経済発展についての会合

(ネーピードー/9月29日)

国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官は、メイティーラ県の各部署の担当者や地元の人々と、メイティーラ市のカンドーミンガラホールにて地域経済発展について話し合いました。

国家統治評議会議長兼首相は会議の中で、メイティーラ県はミャンマーの東西南北が交差する位置であり、交通、商業の中心で交差点であること、ネーピードー連邦領の発展と同様に、メイティーラ県としてもモデル地域として開発が進められるよう取り組んでいること、地政学的にも国の真ん中にあることに加えて、貿易の中心地・中心都市であるとともに、教育の面でも大学やカレッジなどが集中している地区であること、交通アクセスが良好で、利便性の高い土地柄であるため、ビジネスを行うために都合の良い地域であると述べました。

メイティーラ県は綿花が生産されている地域であり、綿花関連の工場の発展には広い視野を持って取り組む必要があること、生産された綿から高度な綿製品が開発され、国内の需要が満たされれば海外に輸出できるようになること、したがって、メイティーラ県としては、地域における綿花栽培・生産活動がさらに発展するよう取り

組む必要があること、国の綿織物繊維産業の先進地域のモデル地区を目指すことで、地域の社会経済生活が発展するであろうと述べました。

我々としてメイティーラ県の開発に取り組んでいること、その際、従来通りにやるのではなく、さらに尽力することが必要であること、時間を有意義に使ってほしいこと、地域の発展のために地域で活動している人々を、地元の人々が広い視野を持って協力するよう呼び掛けたいと述べました。



国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官  
メイティーラ県の各部署の担当者や、地元の人々と地域経済発展について会談

#### 4. 国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官より 世界教師デー記念式典へのメッセージ

国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官は、世界教師デー記念式典に送ったメッセージの中で、すべての人間に教える先生、見せる先生、聴かせる先生という3種類の先生がいること、それよりも学校の教師の価値は計り知れないほど大きいものであること、高貴な教師たちは敬意を持って称賛され、世界中で讃えるようになったこと、1994年以來、毎年10月5日に「教師の価値を高く評価し、教師の未来を向上させよう」、「これからの人生を素敵なものにするために教師も努力しよう」、「教師は平等であり、社会は平和である」、「教師によって始められる教育改革」などのスローガンを掲げて教師に感謝の意を表す世界教師デーの開催から31年が経ったと述べました。

ミャンマーでは、偉大なる教師の恩情を礼賛する伝統が今日まで長年にわたって続いていること、尊敬に値する徳があること、愛情に値する徳があること、称賛に値する徳があること、生徒が間違っていたら嫌われても正すこと、すべての質問に答えられること、深い原理を説明できること、利点の少ないことを押し付けず、より利点の高いことを奨励するという教師の資質七要素が備わった教師は、教え授けること、指導すること、残らず教えること、危機から守ることという五つの義務とともに誠意や関心、犠牲を持って生徒らに教える必要があると述べました。

教師は生徒に勉強だけではなく正しい精神も教える必要があること、人間はお互いに共感を持つということ教える必要があること、私利私欲ではなく慈善活動を行う心を持つように教えること、「年長者を尊敬し、仲間を尊重する、若者に同情する」というミャンマー人の精神が心に浸透するよう指導していくこと、国家に対する国民の責任である連邦精神の存続、高い誇りと威厳、愛国心を高めるために、ミャンマーの伝統的な文化遺産を保存する方法も教えなければならないと述べました。

現在、ミャンマーは近代的に発展し、民主主義と連邦制に基づいた連邦を構築するために知識、技術、スキルと能力、十分な実力を備えた人材の育成・強化が必要であること、したがって、良い教師になるための要件を満たすように努めて、国のために責任ある精神、規律、教育が充実した、将来の良き国民となるよう子供たちを訓練し、育成することを奨励したいと考えていると述べました。

教師は生徒に知識豊富な専門家になるよう教えているため、教師として気品ある立場を保つために、教師らに 2021 年 10 月から教えている学年に応じて制服代、家賃などを補助するほか、教員向けに住居も提供していると述べました。

2024 年の世界教師デーのテーマが「教師の声を大切に」であることから、教師が直面する困難、課題を集中的に解決できるよう協力し、教師としての専門的スキルを身につけ、自身の生活と国のために豊かな知識を身に付け、能力に満ちた人材となるために学ぶよう世界教師デーに強く奨励すると述べました。

5. 国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官より  
日本の石破茂首相に祝辞を拝送



国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官は、2024年10月1日に日本の首相に就任した石破茂氏にお祝いのメッセージを贈りました。

このメッセージの中で、国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官は、石破茂氏が2024年10月1日に日本の首相に就任されたことをお祝い申し上げること、石破茂首相のリーダーシップの下で日本は繁栄し続けると確信していること、両国国民の相互利益を促進させるために二国間の友好や協力をさらに強化させるために協力・連携していくと示しています。

さらに、石破茂首相において最高責任者として、心身ともにご健康で益々ご活躍されることをお祈り申し上げます等と示されています。

6. 国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官  
沿岸警備隊司令部設立3周年記念式典ならびに海軍船舶の就役披露式に出席

(ネーピードー/10月6日)

ミャンマー連邦共和国沿岸警備隊司令部の設立3周年記念ならびに、海洋権益とミャンマー沿岸の警備を目的とした、全長48メートルの高速巡視船4隻の就役披露式が第3海軍棧橋(ティラワ)で開催され、国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官が出席し祝辞を述べました。

スピーチの中で、本日は全長 48 メートルの新たな高速巡視船 4 隻をミャンマー沿岸警備隊の強力な船舶として国軍に登録できる喜ばしい日であり、国軍と沿岸警備隊にとって新たな力が加わる日でもあること、さらに 2021 年 10 月 6 日に発足された沿岸警備隊 3 周年を迎えた日の式典であると述べました。

沿岸警備隊として決められた任務である人道支援の分野において、自然災害救助や海上における緊急時の支援を地域内の国々や近隣諸国と協力して取り組むことや、違法な海上密輸や国際船舶の港湾管理検査 (Port State control Inspections) など、非軍事的な海上警備・安全任務も遂行する必要があると述べました。

沿岸警備隊は、現在、多くの海上任務を遂行するために毎年その編成を拡大していること、1300 海里の海岸線や 1400 の島と 14 万 3110.72 平方海里の領海を有するミャンマーにとって、沿岸警備隊は現在よりも多くの船舶、武器装備、人間の力を拡大しなければならないこと、海事法、国際法、国際海事機関 (IMO) などミャンマーが署名した協定や条約をよく理解し、自国の国益のために有効に活用すること、また上記の法律に従って沿岸警備隊の任務を担わなければならないと述べました。

沿岸警備隊のモットーは「私たちの海を守る」であり、そのモットーに従ってミャンマーの海と海洋資源の利益を守ることができる能力を持ち、有能な国際沿岸警備隊と肩を並べることができるような部隊の構築に尽力し取り組むことを求めると述べました。



国家統治評議会ミン・アウン・フライン国軍総司令官 ミャンマー連邦共和国沿岸警備隊司令部設立 3 周年記念式典と 4 つの高速巡視船の就役披露式においてスピーチ

## 7. ヤンゴン地方域の安全と発展の会議における

### 国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官のスピーチ

ヤンゴン地方域安全と発展の会議がヤンゴン地方域ゴンミンターの会議場で行われ、国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官が出席しスピーチを行いました。

スピーチの中で、ヤンゴン地方域の地方の平和と安全を確保するために、地方域政府と地方域軍司令部が協力しなければならないこと、安全保障に関しては、完璧な安全保障というものには存在せず、国民が参加する安全保障がますます強力となっていくこと、公安および対テロリストのメンバーは、一般の人々と協力して安全に対する意識を高め、安全に対し注意深く監視する必要があること、セキュリティは国民の参加があってこそ強化できると述べました

国家統治評議会議長としては、国の責務を遂行し始めて以来、これまでのプロセスを確立し、最終目標である選挙を再実施し、勝利した政府に国家の責務を移譲と明言していること、この目標を達成するために、我々は一貫してそれを実行していること、複数政党制の民主主義の道を歩む場合、教育を受けた人々が豊富にいることは最も重要なことであること、地区に応じた雇用機会の開拓も必要であること、製造業、農業と畜産業の成功のためには、計画的な行動を実行する必要があると述べました。

行政の担当者としては、自らの担当地域に応じて、良い評価を得る努力が必要であること、自らの担当する郡区、地区に応じて、善行を尽くし誠実かつ正確に職務を遂行すること、また行政の責務を効果的に実行し、安定と平和の発展などをもたらさなければならないと述べました。



ヤンゴン地方域の安全と発展の会議で、国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官がスピーチ

## 8. 国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官に 第18回 ASEAN 海軍司令官会議に出席する ASEAN 海軍司令官及び 代表団のリーダーらが表敬訪問

国家統治評議会兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官に、ミャンマー主催の第18回 ASEAN 海軍司令官会議 (18<sup>th</sup> ASEAN Navy Chief's Meeting) に出席する

ASEAN 海軍司令官及び代表団のリーダーらがネーピードーのゼヤ・ティリ・ベイマン来賓室にて表敬訪問をしました。

会談では、国家統治評議会議長兼国軍総司令官が、ミャンマーはASEANグループ内で最も良好な協力をしている状況、ASEAN地域内の海洋安全保障協力についての状況、自然災害予防のための防災連携協力についての状況、さらに自然災害時の災害復旧・救助経験の相互交換やASEAN海軍間の協力に関して話し合いました。

その後、出席したASEAN海軍司令官及び代表団のリーダーらが個別に紹介をおこない、ミャンマー滞在中のミャンマーからの歓待の状況や、第18回ASEAN海軍司令官会議の開催についての状況、ミャンマーとASEAN海軍間の協力が引き続き促進される状況などについて話し合いました。



国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官第18回ASEAN海軍司令官会議に参加するASEAN海軍司令官及び代表団のリーダーらとの記念撮影



国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官に、第18回ASEAN海軍司令官会議に出席するASEAN海軍司令官及び代表団のリーダーらによる表敬訪問

## 9. 国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官第 25 回シルバージュビリー記念 ミャンマーの伝統的な歌、踊り、作詞、演奏コンクール の開会式に出席

第 25 回シルバージュビリー記念 ミャンマーの伝統的な歌、踊り、作詞、演奏コンクールの開会式がネーピードーにある国際コンベンションセンターⅡで開催され、国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官が出席しスピーチを行いました。

開会式のスピーチでは、ミャンマー連邦は数千年の歴史を通じて、連邦民族が団結して共に暮らしてきたこと、さらに力強さを持ってミャンマー文化の基礎を築き、独自のミャンマースタイルで世界の中心に堂々と立つことができたこと、このようにミャンマーの伝統的な歌、踊り、作詞、演奏のコンクールの開会式を継続的に開催できるのは、ミャンマー人の民族的誇りや愛国心と、国家文化を保存し促進する努力に因るものであり、言い換えると国家の精神をさらに積極的に刺激する努力に因るものであると述べました。

ミャンマーはカチン、カヤー、カレン、チン、ビルマ、モン、ラカイン、シャンの主な八つの民族が団結して、ミャンマーの文化と共通の国民性を持った連邦として調和を持って暮らしています。従って、ミャンマー民族の芸術を研究すると、楽器がどんなに異なっても、基本的にはチューという銅で出来た楽器、チョーという弦がついた楽器、タイエという動物の皮を使った楽器、レーという管楽器やレッコウという両手で打ち鳴らす楽器など 5 種類から成り立っています。

歌、ダンス、作詞、演奏のコンクールにおいて、文化交流として各地の伝統的な舞踊を地方域と州のアーティストらが一緒に競い合いことは、文化交流を通じてお互いの文化を理解し、民族間の友好関係を深めるだけでなく、民族伝統芸術の発展と促進にも大きく貢献するであろうと確信すると述べました。

長い歴史を経て栄えてきたミャンマーの文化芸術は、ミャンマーが植民地となった後、イギリスの植民地主義者によって弾圧されました。しかし、ミャンマーの芸術家たちは抑圧に抵抗し、豊かな国民精神を持って保存に努めたため、ミャンマーの伝統文化芸術が本来の伝統的な特徴を保ちながら、今もなお栄え続けていることを誇らしく見ることができると述べました。

数千年にわたって華麗に発展してきたミャンマー民族の独特な文化、独特の芸術と独特の国民性をさらに美しく繁栄させ、芸術的才能を通じてミャンマー民族の深い歴史と高い文化を世界が存在する限り存続させること、若い世代が国民精神を強く持ち芸術活動を行うことなどを全てのアーティストに奨励したいと述べました。



国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官によってボタンが押され、第25回シルバージュビリー記念 ミャンマーの伝統的な文化の歌、ダンス、作詞、演奏のコンクールのサインボードが除幕される



国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官 第25回シルバージュビリー記念 ミャンマーの伝統的な文化の歌、ダンス、作詞、演奏のコンクールの開会式でスピーチ

10. 国家統治評議会議長兼首相および国家統一平和構築中央委員会委員長  
ミン・アウン・フライン国軍総司令官  
全国停戦協定（NCA）署名9周年記念においてスピーチを表明

全国停戦協定（NCA）は、さまざまな関連団体の関係者と多くの会合を開き、多くの交渉によって確立されたミャンマーの歴史的な協定であること、双方の相互理解を踏まえて同意に達したこと、この協定の署名が行われて以来、協定の取り決めに尊重し国と民族の利益を守るために存在した各少数民族武装勢力（EAO）と、取り決めに破り、私利私欲のために政治的利益を得る EAO も生じていたことが明らかで、NCA の署名の目的は全国的な停戦から永続的で堅固な平和を実現し、民族と民主主義のためであります。

国軍は、NCA の調印から 3 年後、国家の発展を心から願い一方的な停戦を何度も発表し、それを遵守したことは周知のとおりであること、和平に関する政策を定め、広く説明を行い、手を差し伸べていたこと、平和のためのプロセスである対話の申し出も行ったこと、ミャンマーで生じている紛争は、政治的相違からであるため、政治問題を政治的手段を通じて解決することを呼びかけていること、すべての人々が国のために対話の道に参加するよう申し上げたく思います。

ミャンマー国軍は独立以来、反ファシスト人民自由連盟 (AFPFL) 政権時代から現在に至るまで、防衛および国内治安の任務に従ってともに取り組んできたこと、国軍は、国家安全保障と平和に対する責任を時代を超えて十分に果たしてきたことを証明していること、国防の責任が軍だけの単独の責任であるとは考えておらず、国民の力と真の参加も必要であること、国の地理的、政治的状況に応じて、国の責務を慎重に準備する必要があります。

現在、全国の人口と世帯の国勢調査を実施する段階に達していること、国勢調査を終えた後、私たちが保証した 5 つのプロセスの最終地点である複数政党制による民主主義総選挙を順調に実施するために取り組んでいること、選挙にはすべての政党が参加することが重視されており、各地域で選挙を実施できるよう治安状況を維持する努力がなされていること、私たちは、選挙期間中に起こり得る事態を考慮して安全性の向上に向けた措置を講じており、同様に関係する EAO も協力するよう申し上げたく思います。

国軍は、今後もテロ勢力の鎮圧に必要な活動を続けていくため、国民はテロリストに利用されないように気を付けるよう重ねて伝えたいこと、現時点、私たちは強国の利益のために自身の住んでいる地域を破壊するのではなく、長期的な視点で考え、自身が育った国の利益のために協力する必要があること、我々が争えば国家の力は低下し、他意に従う者として歴史に名を残すことになるであろうこと、現時点において、

民族武装勢力は国軍が実施している国家の安定と和平プロセスに全面的に参加し、会議や協議を通じて自らの要望を交渉することを促したいと思います。

最後に、武力暴力によって自身の願いを叶えることはできないこと、政治のテーブルに着き、平和的手段によってのみ紛争を解決する必要があること、我が国政府としては「目標に向かって前進」というスローガンのもと「ミャンマー」の精神を持って前進する中で、NCA を尊重し協力しなければならないこと、国勢調査後に行われる選挙前プロセスの分野で、EAO やすべての民族が安全保障意識と安全保障観を持ち、テロリストを完全に終わらせるために政府と相互に協力するよう促したいと述べました。



#### 11. カタールのドーハで開催された第3回アジア協力対話（ACD）首脳会議に タン・スェ副首相兼外務大臣が出席

(2024年10月3日/ドーハ)

カタール国の招待により、タン・スェ副首相兼外務大臣は、2024年10月3日、カタールのドーハで開催された第3回アジア協力対話（ACD）首脳会議に出席しました。

ドーハのリッツ・カールトンホテルで開催された第3回アジア協力対話（ACD）首脳会議に加盟国の国家元首、政府首脳、外相や代表らが出席しました。会談では、ACD加盟国が、ACD首脳会議を主催国として受け入れたカタールが定めたテーマ「スポーツ外交」を歓迎し、各代表団がそれぞれの国ごとにスピーチを行いました。

第3回アジア協力対話（ACD）首脳会議において、タン・スェ副首相兼外務大臣が2024年10月3日午前にスピーチを行いました。

副首相兼外務大臣は、第3回ACD首脳会議を主催国として受け入れたカタールに謝辞を申しあげること、ACDの現在の議長であるイランのリーダーシップを認め、2024年6月にテヘランで行われた第19回ACD外相会議が順調に開催に導かれ、「テヘラン宣言」がすべての加盟国の同意で承認されたことを記憶していると述べました。また、2025年にAEDの新議長に就任するタイの尽力を歓迎し、ミャンマーとしてタイに全面的に協力する旨、付け加えて述べました。

第3回ACD首脳会議中、代表団のリーダーはACD協力プロセスに関連する事柄や、地域および世界の事柄について親密かつ率直に意見交換を行いました。加盟国はそれぞれの国の発展についても話し合いました。

会談では加盟国が、ACD事務総長に任命されたクウェートのH.E. Mr. Nasser Raden Thamer Al-Mutairi大使と、副事務総長に任命されたイランのH.E. Mr. Mohammed Taghi Hosseini大使に祝意を表明しました。さらに会議の結果として「ドーハ宣言」がすべての加盟国の同意により発表されました。

副首相兼外務大臣は会談の中で、政府の平和、民主化に向けた取り組みや総選挙の実施への取り組み、またミャンマーの発展の現状などについてACD加盟国の代表団のリーダーらに説明しました。

開催国カタールのTamim Bin Hamad Al-Thani首長は、第3回ACD首脳会議に出席した代表団に向けて、2024年10月3日午後にドーハのリッツ・カールトンホテルにて歓迎昼食会を主催しました。

アジア協力対話（ACD）は、2002年6月にタイのチャム郡で設立されました。現在、ACDには5つの主要な地域グループがあり、東南アジアグループ、南アジアグループ、西アジアグループと中央アジアグループの、それぞれ代表する35か国が加盟しています。ミャンマーはACDの設立に参加した国の一つです。

総じて、アジア諸国間の相互協力を促進し、アジアをアジア共同体に変えることを目的として設立されました。ACD事務局はクウェート市に2013年10月に開設されました。

現在、ACD加盟国は国連の「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に沿った6つの主要な柱を優先し協力することで合意しています。その6つの主要な柱は、(a)統合、(b)科学、テクノロジーとイノベーション、(c)教育と人材育成、(d)食品、エネルギーと水の安全保障、(e)文化と観光 (f) 社会的包括と長期的な持続可能な開発、です。

カタールで開催された第3回アジア協力対話（ACD）首脳会議に、ACD加盟32カ国の代表が参加しました。



12. タン・スェ副首相兼外務大臣 第3回アジア協力対話（ACD）期間中に  
キルギス副首相ならびにネパール外相とドーハで別途会談

(2024年10月3日/ドーハ)

第3回アジア協力対話（ACD）首脳会議に出席するためドーハに到着したタン・スェ副首相兼外務大臣は、2024年10月3日現地時間13時にキルギスのMr. Edil

Baisalov 副首相と面会し、同日 13 時 30 分にネパールの Dr. Arzu Rana Deuba とドーハのリッツ・カールトンホテルで個別に会談しました。

キルギスの副首相との会談中、政府の平和・開発や民主化への取り組み、またミャンマーの発展の現状を含め説明しました。さらに、ミャンマー―キルギス間の友好と二国間関係の強化、国連や ACD 内での協力を含む、地域および国際面での緊密な協力などについて友好的かつ率直に意見交換を行いました。

タン・スェ副首相兼外務大臣は、ネパールの外務大臣との会談で、ミャンマー―ネパール間の既存の友好関係のさらなる発展と強化や、両国間の文化観光貿易および投資分野における相互協力の促進、学生交換プログラムの開発、ACD と BIMSTEC（ベンガル湾多分野技術経済協力イニシアチブ）での緊密な協力などについて親密に意見交換を行いました。さらに違法薬物取引の撲滅やオンライン詐欺を根絶するためのミャンマーの取り組みを含めて説明を行いました。

タン・スェ副首相兼外務大臣は、第 3 回アジア協力対話（ACD）首脳会議に出席するためドーハへ向かう途中、バンコクに立ち寄った際、2024 年 10 月 1 日現地時間 14 時にバンコクのインターコンチネンタルホテルでタイの H. E. Mr. Maris Sangiampongsa 外務大臣と会談しました。

タイの外務大臣との会談中、ミャンマー―タイ間の既存の友好関係をさらに発展させることや、両国間の相互協力の促進、ACD および ASEAN と BIMSTEC 間の緊密な協力について親密に意見交換を行いました。タン・スェ副首相兼外務大臣は、2025 年に ACD の議長を引き継ぐタイの重要な役割を歓迎すると述べました。



タン・スエ副首相兼外務大臣  
キルギス共和国の Mr. Edil Baisalov 副首相と面会



タン・スエ副首相兼外務大臣  
ネパールの Dr. Arzu Rana Deuba 外務大臣と面会



タン・スェ副首相兼外務大臣  
タイの H. E. Mr. Maris Sangiampongsa 外務大臣とバンコクのインターコンチネンタルホテルに  
て面会

### 13. タン・スェ副首相兼外務大臣に国際移住機関の駐ミャンマー代表

Mr. Daihei Mochizuki が任命状を提出

(2024 年 8 月 10 日/ネーपीドー)

タン・スェ副首相兼外務大臣に、国際移住機関（IOM）の駐ミャンマー代表として任  
務を担う Mr. Daihei Mochizuki が、2024 年 10 月 8 日 10 時にネーピードーの外務省  
を訪問し任命状を手渡しました。



#### 14. 副首相兼外務大臣 駐ミャンマー国連機関と説明会を開催

(2024年10月8日/ネーピードー)

タン・スェ副首相兼外務大臣は、2024年10月8日14時に外務省のエヤワディホールで駐ミャンマー国連常駐調整官兼臨時人道調整官ならびに国連機関の代表者らに向けて説明会を行いました。

説明会では、副首相兼外務大臣がミャンマーと国連機関間の開発援助を含む協力について実施されている政策や、直面する課題をともに解決することなどについて説明を行いました。

この説明の中で副首相兼外務大臣は、政府として人道支援を本当に必要とする人々に差別なく供給することに重点を置いていること、国連機関や国際機関による人道支援を妨げるものではなく、セキュリティを確保できるすべての地域で認めていること、国連機関や国際機関の往来は安全に十分に考慮して手配されていると述べました。

また、自然災害による救援活動の支援については、主要な関係省庁と連携して、効果的な支援を実施し、作業の重複を防ぐために国家災害管理委員会と協力する必要があること、寄付者の代表として、配布に同行したい場合は同行することができること、

台風被害地域における人道的対応は、国家災害管理委員会の主導で実施されていること、上記の委員会との協力が必要であると述べました。

さらに、駐ミャンマー国連機関として、ミャンマー政府の取り組みやミャンマーの真の状況を、客観的かつ公平な方法で国際社会に知らせる必要があると述べました。

続いて、副首相は、ミャンマーの政治状況に関連して、次期総選挙における有権者名簿の正確性を確保するため、10月1日から全国で国勢調査が実施されていること、民族武装勢力、テロリストPDFに武力テロ攻撃の道を放棄し、政党政治や選挙など政治的手段を通じて政治問題を解決するよう呼びかけていると説明しました。

その後、国連機関より彼らが直面している課題を含めたミャンマーでの活動状況が明示され、副首相兼外務大臣がさらに説明し意見交換を行いました。



#### 15・ルイン・ウー副外務大臣 H.E Mr. Iskander Azizov 駐ミャンマーロシア大使と面会

(2024年10月3日/ネーピードー)

ルイン・ウー副外務大臣はH.E Mr. Iskander Azizov 駐ミャンマーロシア大使と2024年10月3日午前10時にネーピードーの外務省副大臣来賓室にて面会しました。

会談では、二国間の友好関係を強化し、貿易、教育、観光分野を含む両国の協力をさらに向上させることや、地域と国際面での緊密な協力に関して意見を交換しました。



16. ルイン・ウー外務副大臣 国連プロジェクトサービス機関の  
Ms. Sara Austin Netzer 駐ミャンマー事務所所長兼代表と面会

(2024年10月15日/ネーピードー)

ルイン・ウー外務副大臣は国連プロジェクトサービス機関（UNOPS）の Ms. Sara Austin Netzer 駐ミャンマー事務所所長兼代表と2024年10月15日11時にネーピードーの外務省で面会しました。

会談では、ミャンマーとUNOPS間の協力状況について話し合いました。



### 17. よし乃郷グループの事業所を駐日ミャンマー大使が視察

ミャンマーから特定技能人材を募集し、日本の高齢者の介護方法を教育するよし乃郷グループの招きによりソー・ハン駐日ミャンマー大使が、2024年10月25日によし乃郷グループの事業を視察しました。

上記の研修プログラムの歓迎式典において大使はスピーチの中で、彩の国医療・福祉連携事業協同組合より、ミャンマーの洪水被害を受けた人々に30万円を寄付して下さったことに感謝申し上げること、ミャンマーの若者に日本の高齢者介護方法を教育して下さっていることを感謝していること、ミャンマー人の採用の増加を希望するなど述べました。

その後、よし乃郷グループの馬場眞美子会長より、よし乃郷本館特別養護老人ホーム、馬場館特別養護老人ホーム、眞美セントラルキッチン、さらに馬場宿舎（職員宿舎）などが紹介されました。

続いてよし乃郷グループの事業が紹介され視察を行っている中、職場で勤務するミャンマー人スタッフと面会し、大使より「与えられた仕事に尽力すること、健康に特に留意すること、ミャンマー大使館と常に連絡を取り合い、困ったことなどがあれば連絡すること」などが述べられました。

よし乃郷グループは、埼玉県に拠点をおく高齢者介護複合企業であり、ベッド数 310 床、病院 1 ヲ所、高齢者施設 5 ヲ所、診療所 1 ヲ所と 5000 人分の料理を調理できるセントラルキッチンなどを開設しているグループ企業です。



ソー・ハン大使 よし乃郷グループで勤務するミャンマーのスタッフと面会



彩の国医療・福祉連携事業協同組合の担当者らとの会議

## 18. ASEAN 外相会議および関連会議に外務事務次官率いるミャンマー代表団が出席

(2024 年 10 月 8 日/ビエンチャン)

ラオスのビエンチャン市で 2024 年 10 月 8 日に開催された ASEAN 外相会議および第 28 回 ASEAN 政治・安全保障共同体理事会会議、第 35 回 ASEAN 調整理事会会議に、外務事務次官率いるミャンマー代表団が出席しました。

これらの会議に ASEAN 各国外相、ならびに高官や ASEAN 事務総長らが出席し、東ティモールの外務大臣もオブザーバーとして参加しました。

上記会議では、第 44 回および第 45 回 ASEAN 首脳会議および関連会議に関連するガバナンスおよび議題の準備が含まれ、2024 年の ASEAN 議長国であるラオスの優先プロセスやさまざまな分野での実施に関する進展状況、ASEAN 諸国と対話相手国との協力、ASEAN 政治・安全保障共同体ロードマップ（2025）の実施状況、ASEAN 共同体ビジョン（2045）に関連し、その一環として策定されている ASEAN 政治・安全保障戦略計画の進捗状況、さらに地域および国際問題などについて意見を交換しました。

ミャンマー代表団のリーダーは、2024 年の ASEAN 輪番制議長国であるラオスの優先プロセスや、優先分野さらに ASEAN 共同体設立に関連した取り組みを支援し、ASEAN の責任あるメンバーとして、引き続き、他の ASEAN 加盟国と協力して取り組んで行くことを述べました。

第 35 回 ASEAN 調整理事会会議において、ASEAN 社会・文化共同体の副事務総長としてサン・ルイン元ミャンマー大使の任命が承認されました。



#### 19. 第44回、第45回ASEAN首脳会議及び関連会議に 外務事務次官率いるミャンマー代表団が出席

(2024年10月9日/ビエンチャン)

ラオスのビエンチャンで2024年10月9日に開催された第44回および第45回ASEAN首脳会議の開会式ならびに第44回ASEAN首脳会議（全体会議）と第45回ASEAN首脳会議（リトリートセッション）、ASEAN首脳とASEAN議員との会合、ASEAN首脳とASEANビジネス諮問委員会メンバーとの会合、ASEAN首脳とASEANユースリーダーとの会合に外務事務次官率いるミャンマー代表団が出席しました。これらの会議にASEAN加盟国の首脳、政府首脳、ASEANの外務大臣、高官、さらにASEAN事務総長らが出席し、東ティモールの外務大臣もオブザーバーとして参加しました。

第44回ASEAN首脳会議において、2024年のASEAN輪番議長国であるラオスの優先プロセスや、様々な分野における取り組みの進捗状況、ASEAN諸国と対話相手国との協力状況、東ティモールのASEAN加盟におけるロードマップの実施に関する進展やASEANの対外関係強化に関する事柄が話し合われました。

第45回首脳会議（リトリートセッション）では、ASEANの同意5項目の実施状況や、地域および国際問題などについて意見を交換し、ミャンマー代表団のリーダーが、同

意5項目についてのミャンマーの協力、ミャンマー政府の国内における平和・安定の実現への実施状況などについて説明しました。

ASEAN 首脳と ASEAN 議員との会合では、ASEAN 諸国の議会間の協力に関する事柄について話し合われ、ASEAN 首脳と ASEAN ビジネス諮問委員会メンバーとの会合では ASEAN 首脳らは諮問委員会の助言に留意し、ASEAN 地域内の経済、貿易、投資の機会などを促進させることや、官民協力の促進、さらに地域内の持続可能な発展の実現などについて話し合いました。ASEAN 首脳と ASEAN ユースリーダーとの会合では、ASEAN の将来の若者の能力開発やデジタル、人工知能などの先端技術に基づいた教育や雇用創出のさらなる向上などに重点がおかれ話し合われました。



## 20. ASEAM+3 首脳会議および関連会議に外務事務次官率いる ミャンマー代表団が出席

(2024年10月10日/ビエンチャン)

ラオスのビエンチャン市で2024年10月10日に個別に開催された、第27回ASEAM+3首脳会議、ならびに第27回ASEAN・中国首脳会議、第25回ASEAN・韓国首脳会議、第27回日本・ASEAN首脳会議、第21回ASEAN・インド首脳会議、第4回ASEAN・オーストラリア首脳会議、ASEANの統合と強靱性強化に関するASEAN・カナダ特別首脳会議、および東南アジア友好協力条約にルクセンブルクを含む参加調印式に外務事務次官率いるミャンマー代表団が出席しました。

これらの会議に ASEAN 加盟国の首脳や政府首脳、ASEAN 外相ならびに高官、ASEAN 事務総長が出席し、東ティモールの首相もオブザーバーとして出席しました。

ASEAN+3 首脳会議では、ASEAN+3 のメカニズムや協力活動を検証し、将来実施されるプロジェクトや国際面ならびに地域問題などについて意見交換を行いました。ASEAN・中国、ASEAN・韓国、ASEAN・日本、ASEAN・インド、ASEAN・オーストラリア、ASEAN・カナダの各首脳会議においては、ASEAN との協力促進や、各プロジェクトの進捗状況、さらに今後の協力を強化させながら ASEAN 共同体の 3 つの柱を推進させることなどについて話し合いました。



## 21. 台風「ヤギ」の被害を受けたミャンマー国民に対し 日本政府が緊急支援を行うと発表

台風「ヤギ」の影響でミャンマーで発生した洪水や土砂崩れの被害を受けた人々に、日本の外務省より緊急支援として US ドル 200 万の援助がおこなわれることが 2024 年 10 月 8 日に日本外務省より発表されました。

プレスリリースによると、上記の緊急支援は日本から国際移住機関（IOM）や国連児童基金（UNICEF）、国連世界食糧計画（WFP）を通じて、水、衛生面、個人の衛生状態、食料、一時避難施設などの分野で実施されるとのことです。

メコン川流域は洪水などの自然災害が起こりやすい地域であること、日メコン協力戦略 2024 で承認されているように、日本政府は気候変動に対応し、メコン地域における洪水関連の自然リスク軽減プロセスに引き続き協力していくこととしています。

ミャンマーへは国連児童基金（UNICEF）を通じて衛生面や児童保護のために US ドル 100 万を、さらに WFP（国連世界食糧計画）を通じて食料として US ドル 100 万を支援することにも言及しています。

## 22. ミャンマーからバナメイエビを中国と日本に輸出

タニンダーリ地方域のミエイ諸島にある海水養殖池で、バナメイエビ（白エビ）が商業的に養殖されており、主に中国と日本に輸出されています。タニンダーリ地方域で生産されるバナメイエビは品質が良いため、海外からの需要も高まっています。さらに外貨収入を確保できる海水のエビの養殖は、水産養殖業者からも関心を集めています。

ミャンマーの農業・畜産・灌漑省と中国は、水産物の輸出部門の協力に関する覚書を締結しました。この覚書により、ミャンマーは海水魚やエビだけでなく、海水白エビの輸出を増やす機会を得ることとなりました。

バナメイエビは通常、ミエイ諸島で深さ 6 フィート、2.5 エーカーの池に 200 万匹から 400 万匹のエビが養殖されています。100 エーカーのエビの養殖池のうち、40 エーカーは清潔な海水の貯留池として保たれ、残りの 60 エーカーでエビが養殖されています。バナメイエビは 3-4 ヶ月後に市場に出荷できるようになり、タイの市場に輸出されます。エビの養殖業者は US ドル 1000 万以上の収益を上げています。

ミャンマーは、バナメイエビ種と餌をタイから購入しており、茹でたバナメイエビは中国に送られ、冷凍エビは日本へ輸出されています。

タニンダーリ地方域のミエイ県チュンス郡区にあるピィ・ピョー・トゥン社の 832 エーカーの敷地には 105 のエビ養殖池があり、カイン・ジン・ヨー社（Ma San Pa）の 531.05 エーカーの敷地内に 53 のエビ養殖池、プロウ郡区のシュエ・カン・モオ社の 299.77 エーカーの敷地に 25 のエビ繁殖池、さらにトゥー・トゥー・トー社とオー・バ・サン社の 10-15 の養殖池を含む計 200 を超えるバナメイエビ（白エビ）の繁殖池で 4 か月ごとに白エビが生産され、中国と日本に輸出されています。

*Source: The Global New Light of Myanmar (4-10-2024)*



EMBASSY OF MYANMAR